

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
11	太田 康彦（29）	<p>1. 「サル化する現代社会」におけるまちなか再生の意義について</p> <p>富士市は、本年3月、富士市集約・連携型都市づくり推進戦略を策定し、立地適正化計画と市街化調整区域の土地利用方針の2つの柱で、人口減少や高齢化が進んでも暮らしの質が低下しない都市づくりが始まりました。</p> <p>立地適正化計画は、「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりを目指す制度であり、基本方針の第一として魅力ある拠点の形成、すなわち、まちなか再生が挙げられています。</p> <p>さて、京都大学の山極寿一総長は、現代人の行動やコミュニケーションのあり方に対し、「サル化する現代社会」との警鐘を鳴らし、次のように述べています。「もともと人間は会うことでお互いの信頼関係を高め、維持してきたわけですが、今は会うことそのものが省略されるようになっている。（中略）集団のために個が奉仕するような行為が減って、むしろ個を高めるために集団がある。つまり、個人が重要視されるような社会的傾向になってきた。これが私が『サル化する現代社会』と考えた理由です。」</p> <p>このような視点に立って、改めてまちなか再生を考える中で、以下、質問してまいります。</p> <p>初めに、まちなか居住の促進について</p> <p>(1) 居住誘導の施策として、まちなか居住が進められてきましたが、その目的と検証の結果について伺います。</p> <p>(2) まちなかU-40は計画期間をもって終了します。集約・連携型都市を目指す上で、将来に向けて「まちなか居住」の推進施策をどのように考えていくのか伺います。</p> <p>まちなか再生に向けての取り組みとして、リノベーション勉強会やまちなかLabo等、まちなか活用事業が進められています。</p> <p>特に、リノベーションまちづくりでは、本年3月、ふじのふもとまちづくりファンドが設立され、民間主体のリノベーションまちづくりに対する支援が開始されました。</p> <p>そこで、中心市街地の活性化について伺います。</p> <p>(3) 吉原商店街では、リノベーション手法による老朽ビルの再生事例が幾つか見られるようになっていきます。このような商店街での新たな動きをどのように捉えていますか。</p> <p>(4) リノベーションまちづくり勉強会や委託事業を行ってきていますが、これまでの取り組みで得られたこと、今後の展開について伺います。</p> <p>(5) まちづくりファンドのスキームの中では、地方公共団体の役割は「まちづくりに関する計画等の実現に資する支援等」とされますが、公民連携のあり方について伺います。</p> <p>今年6月、都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会が都市再生のあり方を取りまとめ、国土交通大臣</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
11	太田 康彦（29）	<p>に提言しています。この提言を受け「居心地が良く歩きたくなるまちなか」をキーワードとして、人中心のまちなかづくりが始まります。</p> <p>(6) 国土交通省は令和2年度予算概算要求として「まちなかウォークブル推進プログラム」を盛り込み、既に、ウォークブル推進都市に160団体（8月26日現在）の賛同を得ています。静岡県内では、9月10日時点で11市が名を連ねていますが、富士市での検討状況はいかがでしょうか。</p> <p>(7) 都市の再生に偶然の出会いやリアルなつながりを生む都市空間、都市機能の必要性が言われています。富士市での取り組みの可能性について伺います。</p> <p>(8) 人が出会うことの大切さ、SNS等ではなくリアルなつながりを提供する空間がまちなかにほかならないと考えますが、人間社会における、まちなかの意義についての考えを伺います。</p>	市長 及び 担当部長